第17回　日本カイロセミナーin大阪
に参加して

アジャスト職人　磯松俊也

11月11日(土)・12日(日)の2日間にわたり、大阪市セミナーハウス・クロスウエーブ梅田において、第17回日本カイロプラクティックセミナーが開催されました。

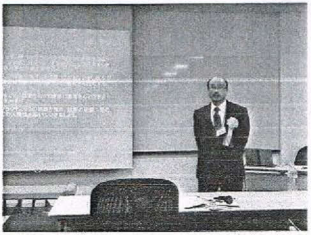
このセミナーはJSCが主催で隔年ごとに行われているそうで、西日本支部の柳永善先生が大会実行委員長を努められました。

北陸支部からは道坂支部長、提携団体として初参加の北陸カイロプラクティック師協会の私共、北陸カイロプラクティック同友会の東山先生が参加、JSC理事で北陸相談役・同友会会長でもおられる高橋克典先生が2日目の臨床応用講座にて大トリを務められました。

今回のテーマは「温故知新」「カイロプラクターの想いをつなぐ！過去・現在・未来」と題され、初日の基調講演では著名な中川貴雄DCが「なぜモーションパルペーションなのか？」について講演され、基礎の検査・診断・治療を大切にする事と、体力の衰えに応じて診断即治療をする事で、無駄な力を抜き、正しい方向へと導き、コンパクトで優しいアジヤストを目指す事が大切であると話されました。

教育講座(禁忌症)では、脳神経外科医である金安明先生が老化・虚血・動脈硬化時における椎骨動脈解離の危険性と禁忌症疾患について説明して下さり、荒木会長とのリスク管理のディスカッションでは老人や基礎疾患を持っている患者に対して日常の臨床時に充分に注意せねばならず、特に頸椎矯正には虚血と危険性が伴うので、予備知識を習得して慎重に取り扱う事で安全性に努めるべきであると大変勉強になりました。

2日目の臨床基礎講座は辻本善光先生が「古典的カイロプラクティックと現代カイロプラクティックにおけるカイロプラクターの役割」というテーマで、哲学・科学・芸術に分けて丁寧に説明して下さり、最後の大トリでは本会北陸カイロプラクティック同友会会長・高橋先生が「温故知新・今あえてアジヤストを語る」をテーマにカイロの歴史、手技



の手順を説明した後で、デモンストレーションとしての骨盤調整・仙腸関節の圧着・頸椎アジャスト等を実技披露しました。

先生の若い頃フサフサ髪型写真が会場の笑いを誘い、名物地獄部屋でも深夜に至る迄熱心な会長ファンとの熱い治療談義が延々と続いて、我々弟子としてもとても誇り高い2日間でした。(感激)

会場は大阪駅に程近く、宿泊施設や宴会場、会議室を完備したとても綺麗な建物で快適でした、今回初参加でしたのでとても緊張していましたが、先に会議で大阪入りしていた道坂支部長がスタッフとしていろいろ世話をして下さったので凄く助かりました。

役員をはじめ会員の先生方は皆さん本当親切で礼儀正しく、会長の応援と神様DCを見て興奮し、場所と空気も読まずに大はしゃぎしている我々北陸勢に対しても何かと気を使って下さって、とても温かく迎えて頂きました事本当に感謝しています。皆熱心で良い人達の集まりなのだなあと素直に思いました。

最後にあたり、講演の中で尊敬する中川貴雄DCが「出会いを大切にする事」「いい師匠を見つける事」「一つの事だけをずっとひた向きにやり続けると、凄く上達して自信につながる、そしてそれを応援してくれる人達が必ず現れる」という金言が心に突き刺さりました、いつかアジャストを極めてみたいと願って日々研鑽している自分への神様からの啓示であると勝手に捉えて((笑))、最高の気分で日程を終え無事帰路に着くことが出来ました。

高橋克典先生の講演のセミナーレポート

道坂圭三

日本カイロセミナー2日目、今日は我が恩師高橋克典先生が「温故知新、今あえてアジャストを語る」のタイトルで講演をなさるということで、北陸の末席を汚す弟子としてレポートを書いてみました。

まず、カイロプラクティックの歴史から始まり、ＤＤパーマーがカイロプラテックを生み、そして残した数々の語録には時代の背景からも当然ながらストレートカイロの理論が並ぶ、しかしそう言いながらトーンこそが基本原則であると言う、ならば何故マニュピレーションが否定されたのだろうと疑問に思う。

自論ではあるが、少し先に存在していたオステオパシーとの区別として、少し頑なに想いが入っての意見だったのではと思いました。

さらに福田安保先生、ジョセフ・ジェンシー先生の偉大な先駆者の方々のお話に進む、やはり偉大なゴッドハンドは精神性が比例すると再確認しました。

そして話は最高裁での日本医療界の悲劇とも言えるあの判決から、その後の日本のカイロプラテック業界が進む歩みを学ぶ。ＪＣＡからＪＳＣへの移行を即ち、ストレートカイロからミキサーカイロへの変革である訳ですが、同じカイロプラクティックを行うものとして、もう少し柔軟に互いの主張を受け入れずとも尊重できなかっただろうか、いやそれは傍観者の意見なのか？自問自答しながら拝聴した。
医師団がカイロプラクターに同じ患者を救う手立てを持つものとして、その考え方や技法に違いはあれど、臨床実績と安全性が論証されていたはずなのに何故排除する方向へ向かったのか、カイロプラテック界の軋轢も医師会の大間違いもすべて『我』が不幸の原因であったのではないだろうか。

そしていよいよ、アジャストについての講義へ入る。
その種類や目的から何をアジャストするのか、どこを治すのかそこに意識を合わせないと効かない！そのためには正しい病態の把握が不可欠で愛の波動を持って接せなければならない！自分の思い込みで無理やり治そうとせずに、反応を感じるだけ！　　まさに奥義の伝授であるかのように聞き惚れました。

サブラクセーションとは？その原因とは？との問いかけから発生学、アナトミートレイン、脳神経・自律神経と講義が続き、いよいよアジャストメントのメソッド理論を説明される、サブラクセーションの見つけ方、とっても大切なアジャストのセトアップ、そしてサブラクセーションの背景となる部位へテンションをかけて繋ぐアジャストというハイレベルなアジャストの講義です。

最後に高橋メソッドを２つ享受しました。
一つは高橋式仙腸関節アジャスト、『仙骨側耳状面のＳ２・Ｓ３には椎間板の痕跡があり可動する、これを正しくアジャストすることにより耳状面はより簡単に本来の正しい位置に戻ろうとする』というメソッドで会場からは「凄い良い方法だ、これ他の症状にも使える！」といった歓喜の声がありました。
そして最後に寛骨のＹ字縫合のアジャスト、腸骨・恥骨・坐骨を３方向から圧着することで大腿骨骨頭が寛骨臼に収まるという、すごく簡単で効果の大きなメソッドでした。

JSCC 第１９回学術大会に参加して

ＪＳＣ北陸支部長　道坂圭三

10月21日と22日の土日の二日間、兵庫県宝塚市の宝塚医療大学にて１９回学術大会が執り行われ、これに参加した。

駅に着くとすでに係員がバス乗り場等で誘導をしておられた。

会場は美しいキャンパスで中に入ると、ＪＳＣでも顔なじみの先生がたくさんおられ、ご挨拶を交わしながら席に着く、会場から演壇を見下ろす形でとても見やすい。

北陸からは、高橋会長、行沢先生、東山先生と私の４人が参加した、今回のテーマは「骨・関節の動きを科学する」とあり、我々カイロプラクターにとっては切り離せないテーマである。

ＪＳＣＣ会長の中川貴雄Ｄ・Ｃのご挨拶からいよいよ開始、３人の先生の一般講演の後（内容についてはパンフレット等を参照されたし）宝塚医療大学の永瀬佳孝教授による特別講演で『基礎医学の知識をどのように運動療法に生かすか』という講演で、解剖学や生理学の知識をどのように運動療法、徒手医療に臨床で使われているかを解説なされた、普段何気なく当然のように行っている施術がなぜ効果をもたらすのか、なぜそのように作用するのかを、とても簡潔明瞭に説明なされ実に素晴らしい講演であった。

その後に再び一般講演が三題あり、どなたの講演も大変興味深く趣きがあった。

中でも発達障害児の発語、発育に関する講演は自分自身凄く興味があるテーマでこれ程までに重い症状に徒手医療で素晴らしい効果を挙げておられる先生のご努力とその研鑽には頭が下がる想いであった、このような施術が学会でどんどん発表され、我々がその学問とメソッドを享受し、同じ症状で苦しむご家族の希望の光になる事を願って止まない。

続いてワークショップに移り、私は歯科医の幸田先生の講義を選択した、顎関節と蝶形骨，鋤骨、後頭骨、前頭骨を歯車のかみ合わせで説明し、蝶形後頭軟骨結合に影響を与え、脳や自律神経などに如何に影響をもたらすかという講義であった。

今回で２度目の学会参加であるが、本当に我が北陸徒手医学会の仲間は勿論、すべてのカイロプラクター、オステオパスに参加して頂きたいと思う、なぜなら私達が現在勉強会等で習得している学問、メソッドは此処でのこういう先生たちの研究・発表から生まれるのであり、私たちもやがてはこの学会で発表し、新しい発見、その論理付け、そしてメソッドの確立へと、苦しむ患者さんの助けにならなくてはならないと思うのである。

ここから懇親会で会場を移動する、高橋先生が兄貴と慕う守屋先生と馬場先生が同じテーブルに居らっしゃる、このチャンスを逃してはならない！私のミーハーな心に火が着き、それでも少し恐縮しながらご一緒に写真を撮らせていただく、帰ったら磯松先生に見せびらかさないと！(笑)

協賛企業からのくじが発表されているが、くじ運の悪い私は今回もお呼びがかからない、このようにしてアッと言う間に１日目が終了した。

何だか台風情報が気になるが、恐らく明日の夕方以降までは大丈夫であろうと希望的観測。

翌朝、２日目の学会である、ホテルで朝食のコーヒーとジュースを飲んでいるとニュースでサンダーバードの運休と言っている様子、まさか全部運休でもあるまいが今日は早めに帰った方がよさそうだ。

会場入りし、先は一般講演を４題受講する、どの講義も本当に素晴らしく趣深い内容に見入る。

ここでも神経発達症についての講義があった、内容については殆んど精神科のDr.でもないと理解できないくらい難解な講義であったがやはりこういった症状には、徒手医学が一番活躍できるのではないかと思う。

次は阪大教授による基調講演である、IPadで馴染みあるチームラボボディーの開発者でもある、その開発の経緯をお聞きしながらとても勉強になったのだが、仙腸関節の動き、頭蓋骨の動きなど今まで西洋医学では認めていなかった事が、ここではっきりと認められて溜飲が下がる想いではあるが、感覚の尺度が非常に粗いと思わざるを得ないのである。仙腸関節の動きもおかしいと思ったほかの先生の質問に対し、「そこは確かに違うがそこまで細かい事は無視できるであろう」との答えに我らは「そこが大切なのに」の言葉を飲み込む、またモンテギア骨折は折れた尺骨が橈骨を押し出し脱臼するという厄介な骨折であるが、これにも徒手療法では素晴らしい治療法(骨接ぎ術)があるのだが外科手術では橈骨、尺骨を共に切断し角度を変えてボルト止めするとの説明にも驚きを隠せなかった。

外科療法は徒手療法と比べるとかなり粗く乱暴な治療だと思わざるを得なかった、確かに外科治療が本領を発揮するのは大けがや徒手療法ではカバー出来ない症状であるのでいたしかたないのであろう。

次にワークショップを終えいよいよ我らが高橋克典会長の最優秀論文賞の授賞式である。

この素晴らしい論文発表の中で、しかも２回も最優秀に選ばれるという快挙を成し遂げられたのである。
中川DCに表彰状とトロフィーを授与され高橋会長のスピーチが始まる、いつになく緊張されておいでのようだ、だがすぐにその訳が分かった、普段決して他を悪く仰らない先生がカイロプラテックの業界全体のレベルアップのために、日本の医療のために、カイロプラテックを食い物にする輩や現在の医療制度や西洋医学の欠点について苦言を呈しておられるのである。
　拝聴しながらその熱く尊い想いに又もや心が打たれる思いであった。
次は仙腸関節職人の異名をとる吉岡先生の禁忌症であったが、台風のため早く帰る事をお伝えし受講をご容赦いただく。
　しかし電車はまだ大した風雨でもないのに朝から全休であると知り、急遽乗り捨てレンタカーを借り皆で乗り合って帰った。
　帰り道の途中で風雨が強くなり、いよいよ台風らしくなってきた中、私の運転で疾走する。
　色々あった珍道中も楽しい想いでの一コマである、こうして第１９回学術大会の参加を終えたのである。

学会に参加して

北陸支部の紅？一点　行沢幸子

10月21日，22日　宝塚医療大学にて日本カイロプラクティック徒手医学会第19回学術大会が開催されました。毎回の基調講演　特別公演は楽しみです。大学研究者方々の違う世界の視点からの医療の話が聞けるからです。それと一般講演の先生方が時間を割いて一生懸命に発表に取り組んでこられた努力の姿勢を観ることができとても刺激と発見と感動をいたします。
　今回　列車の関係上遅れての参加でした。どの発表も素晴らしく年々レベルを上げてきているようです。学会のレベルが高くなってきているということです。それは、継続してきたことに他ならないと思います。
　中で（顎口腔系の繋がり）を講演された幸田秀樹歯科医師の講演は、目を見張りました。歯のかみ合わせの不適合で表情　言葉もはっきり話せなくなる。顎がふにゃふにゃになる。姿勢も全身症状も悪く　生きていけるのかと思わせます。ところが辛抱強い心ある治療でどんどん改善されていく様子　表情が明るく戻っていく様子　感動しました。学びたいと思いました。
　一般発表で関心が湧いたのは、吉田優也先生の神経発達症における（徒手的アプローチの新しいコンセプト）です。

原始反射統合を応用した施術の形　原始反射は脳幹以下の反射のため、三位一体脳の爬虫類以前を考察して以下のようにまとめられた。図式がとっても面白く論文が楽しみです。

以下とは、１基礎発達：恐怖麻痺反射

２頭索動物：Moro 反射

３尾索動物：緊張性迷路反射

４魚類：脊髄ガラント反射

探索・吸引反射

５両生類：パーマー反射

バビンスキー反射

６爬虫類：非対称性緊張性頸反射

７哺乳類：対称性緊張性頸反射

１基礎発達の段階において、何らかの問題が見られると、恐怖麻痺反射が活性化していると考えている。恐怖麻痺反射とは、原始反射以前の初期子宮内反射と呼ばれる反射であり、通常出産までには統合されるものである。この反射は、名前の通り恐怖により麻痺を起こす、すくみの反射である。これは、外的刺激に対する弱さ、新しい場所やことへの拒否，自己肯定感の低さ、緊張で固まる、などである。

原始反射をわかりやすく面白く図式化と　恐怖麻痺反射の説明は、私にとって初めて聞くことであり大変関心を抱きました。

話は変わりますが、2 日目ホテルのトイレに携帯を忘れてきて取りに行きバスまでも乗り違えている間に大事な高橋先生の最優秀賞の表彰式と感動の挨拶を聞けず残念でした。それにワークショップも聞けず会場に戻る間もなく台風で早々にレンタルカーで帰ることになりました。（笑：私いつもなんでこうなんだろう）

台風でサンダーバードが不通になり　みなさん高橋先生　道坂先生　東山先生方々のお誘いでお蔭様でレンタルカーで無事帰宅できました。道坂先生の名ドライバーで安心して楽しい時間でした。本当にありがとうございました。金沢からの新幹線の切符も失くし再購入やはりどこか抜けている私、いやはや今回の学会なんだったのであろうか。しかし学会は素晴らしい。これだけの研究を学会誌に残しカイロプラクティックの科学を後世に残せる輝かしい未来である。継続してこられた初代からの先生方々に感謝せずにはおられないでしょう。ありがとうございました。

学会に参加して

東山忠幸

平成 29 年 10 月 21 日・22 日に日本徒手医学会・第 19 回学術大会が宝塚医療大学で行われました。『骨・観察の動きを科学する』というテーマでスタートしました。

宝塚医療大学の教授であり歯科医師の永瀬佳孝先生の「基礎医学の知識をどのように運動療法に生かすか」の講演では生理学の知識を如何に臨床に生かすかを考えるなど。皮膚の
やさしい触覚感受性を利用したマイクロ牽引法。寝たきりの人をどうやって起きるようにするかは乳幼児の発達過程にヒントがある。介護も楽になる。患者の痛みは頭が左右する。
人間が歩くときは回転運動をしながら前に歩く。ゴリラは2足歩行が絶対にできない。臨床に多いに役立つものがあった。

大阪大学・運動器バイオメタリアル学教授の菅本一臣先生の「骨・関節の動きを知る」の講演はコンピュータソフトを使用して生きた人間の立体的な動きを世界で初めて解明された。すべての骨の動きではないがその映像を見ることができた。質問が多かった仙腸関節の
動きは分かり易くする為に仙骨の動きは止めた為か2方向だけの動きに見えた。8個の手根骨の動きはどの方向でも全く同じで2個の骨の動きは小さいのでこれをリハビリなどに生かせば治癒ももっと効率を上げることができる。C3～C7の動きも全く同じでした。

伊藤カイロオフィスの伊藤彰洋先生の「椎間孔テクニック３」前回に続き椎間孔テクニックの第３弾。下肢の腱反射（深部腱反射）が更新気味になっている。問診でのレッドフラグ要因をチェックするなど。脊髄はめん弾性（可塑性と弾性を併せ持つ）を持ち長軸方向への引張力に弱い事がわかってきたこと。側臥位で頸椎上部から１本ずつ始める。椎間孔テクニックで改善しなければ脊髄症を疑う。

その他にも講演や論文発表（一般講演）があり治療に十分活用できると思います。懇親会などもあります。年に一度の大会ですが又新たな発見・出会いを求めて是非参加して下さい。文章がついつい固くなって申し訳ありません。尚、台風で電車がストップ、４人でレンタカーを飛ばして無事に帰路につきました。

尚、この大会の終りの表彰式では高橋先生の最優秀論文賞「顔面神経麻痺の考察」の表彰がありました。先生が偉業を達成されたことに対して心から敬意を表します。楽しく有意義な２日間でした。

『授賞式での挨拶』

高橋克典

受賞者を代表致しまして、私より皆様方にご挨拶させて頂きます。

この度は、私の論文に対して、過分なるご評価を頂き誠にありがとうございました。これも多くの皆様方のお蔭だと思います。

査読委員の先生方には懇切丁寧なご指導を頂き、私の論文とは言えない作文を論文に仕上

げて頂きました。また発表の機会を頂きました学会役員の皆様、そして学術大会で運営に当たられましたスタッフの皆様に感謝申し上げます。論文で顔写真の使用を承諾いただきました患者KMさんにも感謝申し上げます。

私はカイロ業界に入って 37 年になります。その間、多くの素晴らしい出会いがありました。先輩方には多くの事をご指導いただき、良き仲間とはお互いに切磋琢磨してきました。またカイロの勉強だセミナーだと言って家を空けることも多く、それでも応援してくれた家族、それに患者の皆様にも支えられてきました。多くの皆様のお蔭です。

私は日頃、臨床の際やカイロを勉強する時、カイロは医療であり、カイロプラクターはドクターである、医者に負けるものかとモチベーションを高めています。

しかし残念ながら、我が国ではカイロは医療ではありません。西洋医学だけです。

その西洋医学が今行きづまってきています。病院には患者が溢れ、医療費もうなぎ登りで歯止めがかかりません。本当に正しい医学であれば、皆さん健康になり、患者さんがいなくなるはずです。それは西洋医学では薬物による対症療法を行っているからだと考えます。症状の多くは治癒反応でありそれを抑えると治るのを妨げることになり、反って病気を複雑化させてしまいます。また抗生物質や抗ウイルス薬の乱用によって耐性菌や耐性ウイルスが増えています。薬害や副作用によって病気が増えているのです。

一方我々の行っているカイロプラクティックでは、全身根本療法の考えのもと本当の原因を探し、施術を行っています。そして医療の原点である手当て、ハンドパワーだけでイネイトインテリジェンス（自然良能）を高め、健康へと導きます。皆さんはどちらが理にかなっていると思いますか？私はカイロだと自信を持って言います。

しかし患者さんの多くは、我々がいくら正しいことを言ってもお医者さんの言葉を信用します。また残念なことですが、近年短期養成のカイロプラクターが増えて、カイロ業界の平均点はどんどん下がってきています。そして正しいカイロを凌駕しようとしています。

ここにお集まりの皆さんは正しいカイロを語ることが出来る知識と技術を持っておられると思います。革の根運動ではありませんが、皆さんの患者さんや皆さんの周りの人にカイロを熱く語ってください。皆さんの周りのレベルの低いカイロプラクターの先生を学会に誘ってください。業界の底上げをしなければ社会的評価も上がりません。

カイロを潰そうとする圧力もあります、またカイロを食い物にする輩もいます。しかしカイロを応援して下さる患者さんも多くいます。カイロの治療を必要とする患者さんもたくさんいます。我々はカイロを守っていく必要があるのです。

日本でも医療としてのカイロ、医師としてのカイロプラクターを実現することが必要なのです。

本学会は、カイロの研究、カイロ理論の構築、カイロの社会的啓蒙などの活動を行ってい

ます。

本学会も昨年より一般社団法人になり、これから益々カイロ業界で指導的な立場になっていくことを心より願っています。

私も微力ながらお手伝いさせて頂きます。

本日は誠にありがとうございました。

KOセミナーに参加して

北陸支部長　道坂圭三

12月9日・10日の二日間、大阪でのＫＯセミナーに参加しました。

今回のテーマは診断学、正しい診断なしに感覚や勘に頼った治療を施す事の欠点は、再現性の不足として現れるのみならず、誤診、不治、難解な病状に手も足も出せないなどたくさんの欠点を含有し、診断なき治療はありえません。

特に私のように療術師として始めた者は、柔整師や鍼灸師といった学校を出て国試を通過した先生方と違い、基本的な解剖、生理、病理学といった知識が曖昧で、診断学は苦手であり、自分自身の次の壁を超えるための必須アイテムであり、とても大切なセミナーと期待して臨みました。

しかも今回のＫＯセミナーでは全国のゴッドハンドとの誉れも高いJSC講師陣の先生が実際に会場から患者を選出し、診断を行い施術、確認までを、「なぜ、どのように、どうしたのか」を解説しながらデモで講義をしていくといった、非常に素晴らしい、将に親切極まりない講義です。

一般に、著名な先生が自分の半生を懸けて勉強し、習得した知識と技術は、その先生の云わば、商品であり企業秘密である訳です。当然それを享受するにはそれに相応しい、対価が必要であり多くの場合、弟子としてその先生に仕える、また高額のセミナーに参加するのですが、小出しに切り売りして頂けるならいい方で、「ありゃ～やられたな」とほとんど何の収穫もないこともしばしばです。ましてや全国区レベルの先生のそういったセミナーは普通なかなか参加できません。

しかし、前回役員会に参加して初めて知ったのですが**JSCの理念はこういった素晴らしい知識や技術を販売する事ではなく、会員の先生方のレベルアップを図り、日本の徒手医療の向上のためにあるので**、採算度外視、赤字覚悟で教師のほうから生徒にその企業秘密で極秘であるはずの「私はこうやってこう考えてこのように治療しています」を披露して教えていただけるのです、親切極まりないとはこう言った訳です。

荒木会長と田中先生がメイン講師を務められ、我らが高橋先生、阿知波先生、南部先生、寺山先生がサブ講師といった豪華ゴッドハンドのキャストで始まります。

FFD（前屈位で手がどこまで下がるか）テストでー25cmというデモ、筋骨格系限定での診断、治療から始まる。

まず問診、これーつとっても私の問診がいかに稚拙で浅はかだったか思い知らされる。なぜそこのテストをするのか？なぜそこを疑ったのか？そこをどう関連付けして答えに絞り込むのか？そしてどう治療するのか！

すべてがやはり深い！確かな理論に基づき、治療までのアクセスに驚きと感心の連続、内臓やクラニアルなしで結果ー5ｃｍ。

そこから生徒は班編成を行い、そこに講師の先生が着きアドバイスを受けながら診断、治療を行うスタイルの授業です。

ここで感心したのが若い先生方も皆、しっかりと勉強なさっていると驚かされました、首が上を向く時に痛みが走るという患者に対して、問診から過去の病歴との関連を疑い、検査し確認、足首と胸椎の施術にて改善しました。

この病歴との関連性を確かめる検査の確かな理論と技術に自分ももっともっと精進しなければと反省させられましたし、凄くよい刺激を頂きました。

病状のある所からではなく、遠い所から治します！なぜなら・・・。
他の所からいらっしゃった患者さんにそこと同じ治療は絶対しないなぜなら・・・。
ただ原因を見出すためでなく患者さんとのプラシーボ効果を最大に引き出すことを踏まえた問診、ただ症状を抑えるのでなく、元に戻らない治療をするための診断、本当にさすがはゴッドハンド、本当に自分の診断との違いにまだまだ伸びシロがあることを再確認し、新しい知識と技術を取り込み、帰ります。
「さあ明日からこれを身に着ける治療が待っている！」と希望を抱き帰途につきました。

金沢例会報告

芸名こまっ君：井原　亘

平成29年12月3日、第18回の基礎課程スクリーニングに参加して来ました。

会場は金沢勤労者プラザ、今回は前回（先月）と引き続き、肩関節についての勉強でした。講師は北陸徒手医学研究会・北陸カイロプラクティック同友会会長である高橋 克典先生です。

午前は肩関節の疾患についての講義で、午後からは中川 貴雄DC著の「四肢のモーション・パルペーション下巻」に基づいたモーション・パルペーションの練習を行いました。

このモーション・パルペーションは「検査兼治療」に繋がり、大変有効なテクニックと思っております。特に肩関節周囲炎で関節の拘縮が認められる患者さんには重宝しております。

ここでの最大の魅力は高橋オリジナルテクニックの披露であります。

今回は、鎖骨外側端と肩峰の間の隙間を広げるテクニックです。ここを広げる事により、肩鎖関節の動きが良くなり、結果、肩甲上腕関節の屈曲・内転・外旋・内旋の可動域が獲得できるという凄いテクニックです。しかし、このテクニックには二つ問題があり、「正しい部位にコンタクト出来るか？」
と「圧痛がある」事です。しかし、現場では、患者さんに「痛いよ～」と言って行っています（笑）。

また、ここでは、自分が体の何処かが具合が悪くなった時に、高橋先生や受講生の先生方に治して頂けるのも大きな魅力です。

いつも、僕が「やらせ上手」と言われていますが（笑）、それもれっきとした勉強です。（たぶん）

今日は毎年恒例の「忘年会&高橋先生の JSCC 最優秀論文賞のお祝い」を APA 金沢ホテルで行いました。今年は基礎科の受講生の先生方も多く参加され、大変にぎやかな宴会となりました。そこでは普段、勉強会では学べない有意義な時間を過ごせました。普段、施術現場では孤独であるので本当に良かったです。

最後に、

最近、痛感する事は、高橋先生の授業は大変内容が濃く、「基礎科・臨床科の４年」では基礎を理解していなかったので、全部自分の物に出来ませんでした。

しかし、諦めず“繰り返し、繰り返し例会に受講する事”と、他の先生方に聞いたりしてやっと自分の物に少しずつなってきました。みなさん、有難うございます!!

活動予定

＊富山例会は、症例検討を中心に勉強しています。

＊金沢例会の臨床過程は、資料の準備もありますので、事前に参加を高橋まで連絡してください。

① 1月11日（木）富山例会　午後10時～　全尽堂
② 1月14日（日）金沢例会　午前9時～午後5時　金沢勤労者プラザ203研修室
足指関節のバイオメカと検査学
③ 1月25日（木）富山例会　午後10時～　全尽堂
④ 1月28日（日）金沢例会　午前9時～午後5時　大門総合会館101研修室
消化器系疾患の検査・診断・施術（Ⅰ）
⑤ 2月4日（日）金沢例会　午前9時～午後5時　金沢勤労者プラザ202研修室
足指関節の診断学とテクニック
⑥ 2月8日（木）富山例会　午後10時～　全尽堂
⑦ 2月18日（日）金沢例会　午前9時～午後5時　大門総合会館101研修室
消化器系疾患の検査・診断・施術（Ⅱ）
⑧ 2月22日（木）富山例会　午後10時～　全尽堂
⑨ 3月4日（日）金沢例会　午前9時～午後5時　金沢勤労者プラザ203研修室
膝関節のバイオメカと検査学
⑩ 3月8日（木）富山例会　午後10時～　全尽堂
⑪ 3月10日（土）11日（日）KOセミナー　サニーストンホテル　総合；検査・診断・施術までの考え方を練習する
⑫ 3月18日（日）金沢例会　午前9時～午後5時　大門総合会館101研修室
内分泌器系疾患の検査・診断・施術
⑬ 3月22日（木）富山例会　午後10時～　全尽堂

編集後記

＊今年も早いものであと残り僅かとなりました。皆さんはどんな1年だったでしょうか？私的にはとても良い1年であったと思います。
＊日本カイロセミナーでは、臨床応用講座の講師を拝命し、また日本カイロ徒手医学会の学術大会では、私の論文「顔面神経麻痺の考察」が最優秀論文賞として表彰されました。今までのカイロ人生でたくさんの良き先輩や仲間との出会いに感謝です。
＊12月の北陸徒手医学研究会の忘年会では、学生やOBの皆さんにも、受賞を祝ってもらい感謝です。
＊来年も、お互いに切磋琢磨して、北陸支部員の皆さんにレベルアップして頂きたいと思います。そして北陸のカイロを必要としている患者さんに質の高いカイロ施術を通じて貢献できたらと思います。

（編集担当；河童はげ）